

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

倫理道德とリーダーシップ 稲盛和夫 (京セラ名誉顧問)

1. 西郷隆盛は、リーダーの選任にあたって、最も大切なことは、次のようなことだと述べています。「徳の高い者には高い地位を、功績の多い者には報奨を」。つまり、高い地位に昇格させるのは、あくまでも「人格」を伴った者に、すばらしい業績を上げた者には、金銭などで報いるべきだと言うのです。
2. 現在の企業では、そのリーダーである経営者の選任にあたって、「徳」つまり「人格」はあまり顧みられず、その能力や功績だけをもって CEO などの幹部が任命されています。つまり、「人格者」よりも、功績に直結する「才覚」の持ち主のほうが、リーダーにふさわしいと、考えられているのです。
3. しかし、本来、多くの人々を率いるリーダーとは、報酬のためではなく、集団のためという使命感をもって、自己犠牲を払うこともいとわない高潔な「人格」をもっていなければならないはずで、事業が成功し、地位と名声、財産を勝ち取ったとしても、それが集団にとって善きことかどうかをよく考え、自分の欲望を抑制できるような強い「克己心」や、その成果を社会に還元することに心からの喜びを感じる「利他の心」を備えた、すばらしい「人格者」でなければならないのです。

(参考：「週刊ダイヤモンド」2019年3月16日号)

経営者のための危機管理

日本の低生産性の要因 (モンスタークレマー)

1. いま世の中には、モンスター化したクレマーや社員が急増している。モンスタークレマーの中身を見ると、最も多いのは「暴言」「脅迫」で、「何回も同じクレーム」「説教」も相当数ある。モンスター化した客や社員への対処は、企業にとって死活問題なのだ。さらに、モンスタークレマーは、日本の労働生産性の足かせとなっている。
2. 日本の生産性が低水準にとどまっているのは、サービス業の生産性が低いからだ。それは日本のサービス業が、「お客様は神様」「安いのはいいこと」という二つの価値観を信奉するあまり、価格に見合わない過剰サービスを提供し続けてきたことに起因している。

(参考：「週刊ダイヤモンド」：2019年2月16日号)

経営者のための理念・哲学

勤労観について 田口佳史 (東洋思想家)

1. 悟りに至る道を歩むことが「道」の意味です。だから、茶道というのは、うまいお茶をあてることが目的ではなく、茶の湯を通じて悟りに至ることを目指している。では悟りとは一体何か。覚悟という字が「悟りを覚える」と書くように、悟りとは覚悟を決めることです。
2. 覚悟を決めた時に悟りに至れるのであり、そこに至るまでの過程が修行である。では修行と単なる作業はどこが違うのかというと、道元は「一つひとつ丁寧に、心を込めて」、それだけだと。毎日毎日、自分の所作を丁寧に、心を込めて、一所懸命磨いていく。これが日本人の勤労観です。

(参考：「致知」2019年3月号)

古典に学ぶ

真の英雄豪傑

(解説) 史乗などに見ゆるところの英雄豪傑には、とかく智情意の三者の権衡^{けんこう}を失した者が多いようである。すなわち意志が非常に強かったけれども智識が足りなかったとか、意志と智恵とは揃っていたが、情愛に乏しかったとかいうごとき性格は、かれらの間にはいくらもいた。かくのごときものはいかに英雄で豪傑でも常識的人とは言われない。

(参考：洪沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会)